

6. 地域後援会からのお支え

後援会は、本校学区渡島・檜山管内27市町村からのご助成及び相馬報恩会等の団体や個人など393法人・会員の皆様に支えられて87年目を迎えました。ご支援を感謝申し上げます。

7. 地域保健関係機関のご支援による教育相談の実施を

視覚に障害のある子どもが円満に成長発達するため、また保護者が抱える不安などに適切に対応するためには、視覚障害児の情報を各教育委員会等から早期に得て、盲学校として、子ども一人一人の状況に応じた的確な家庭教育等の情報を提供したり、直接指導することが必要です。このため、本校では、渡島・檜山管内の各学校等との連携を積極的に図り、視覚に障害のある子ども情報をご提供いただき、本校が訪問する教育相談や、本校に来校する教育相談を実施できればと願っています。視覚障害の疑いのある子どもがいる場合、ご連絡ください。

8. ボランティアの皆様へ感謝しつつ

開校から20年間は遺愛女学校から様々なご援助を得、現在も英会話、茶道・華道、学習やスポーツ支援など多くの地域ボランティアの皆様のご支援を頂いております。本年度から、地域ボランティアセミナーを開催し、視覚障害教育等の理解・認識の推進に努めています。

(会報担当者：千葉 昭 委員)

◎ 出席報告

会員数	56名	出席率	函館北	11月24日	86.79%
出席	38名		函館東	11月23日	祝日休会
欠席	18名		函館	11月18日	82.83%
他クラブ出席	16名		函館五稜郭	11月19日	98.63%
出席合計	44名		函館亀田	11月22日	77.08%
除外者	3名				

・ テレフォンサービス(例会移動案内)電話 23 - 2377 番

次回・12月22日
プログラム

「クリスマス家族会」



函館北ロータリークラブ会報

1999~2000年度 国際ロータリーテーマ

ロータリー2000:
活動は一堅実
信望・持続

ROTARY2000:ACT WITH
CONSISTENCY, CREDIBILITY,
CONTINUITY

小池 凌一 会長テーマ 『友 愛』



12月8日卓話 鈴木 重雄氏

《第1755回例会》 第21号 12月15日(水)

本日のプログラム

「山岳写真の話」

写真家 市根井 孝悦氏

★会長 小池 凌一

★幹事 阿相 義則

12月8日の記録

◎司 会 小池 凌一 会長 ◎斉 唱 奉仕の理想

◎ゲ ス ト 函館盲学校 校長 鈴木 重男 氏

◎ビジター 函館東R.C.明本修一君、函館R.C.中沢郁雄君・鹿日浩一君・神田勝美君・室田政己君・黒崎敏雄君・遠藤哲二君・中山浩一君

◎会長報告 小池 凌一 会長

○クリスマス家族会は、会員は全員登録とさせていただきます。又招待者は名誉会員と交換学 生、チャリティーオークションの益金は社会福祉協議会へ寄付します。

○新年恒例会は予定表に書かれている7日を5日に変更して行います。

○七飯R.C.との合同例会は2月23日に夜間例会として開催致します。(七飯R.C.は当クラブがスポンサークラブとして設立致しました。)

○2月13日に行われます今年度のI.M.には全員登録と致します。

○職業分類委員会より提出されておりました2名の会員の変更が承認されました。阿相会員は不動産管理から総合ビル管理、藤田会員は室内プランニングサービスから総合建設リフォームとなります。

○佐藤康幸会員から退会の申し出がありましたので、承認致しました。

○副SAAに竹谷会員をお願いすることになりました。

◎幹事報告 阿相 義則 幹事

○会員推薦がありました。異議の申し立ては12月14日までに書面にて理事会へ提出して下さい。

○合同事務所は12月28日から1月4日まで閉所致します。

○当クラブ1月5日の例会は新年恒例会とし午後6時30分から一乃松にて開催致します。案内は後日郵送致します。

○他クラブ例会変更 12月20日(月)函館亀田R.C.夜間例会、24日(金)函館五稜郭R.C.夜間例会、27日(月)函館亀田R.C.早朝例会、28日(火)函館東R.C.移動例会、30日(木)函館R.C.自主休会、31日(金)函館五稜郭R.C.自主休会

◎親睦活動委員会 田畑 収 委員

ニコニコBOX投入報告

小池 会長……先日ノースアイランダース11名で愛泉寮に行ってきました。

中川 会員…… ”

小笠原会員……BOXに協力。

森(秀) 会員…… ”

金子 会員…… ”

久保 会員……ごぶさたしております。

広多 会員……ゲストスピーカー鈴木先生をお迎えして。

成瀬 会員……転勤して2ヶ月が過ぎました。

松見 会員……ノースアイランダース御苦労様でした。

◎卓話 「北海道函館盲学校の教育」 函館盲学校 校長 鈴木 重男 氏

1. 学校沿革の概要

○明治28年アメリカ人シャーロツテ・ピンクニー・ドレーパー女史が創始(明治28年:函館訓盲会、明治34年:函館訓盲院、明治45年:私立函館盲啞院、大正14年:函館盲啞院、昭和22年:函館市立盲啞学校、昭和23年:北海道立函館盲学校、昭和25年:北海道函館盲学校)

○平成7年10月創立100周年記念式典(現在、創立104年目)

○平成11年10月ドレーパー先生没後100周年式典

2. 幼児児童生徒の現状(視野狭窄等の視力以外の視機能障害も本校対象)

区分	数	文字		出身地							寄宿舎	
		点字使用	普通文字使用	函館	上磯	大野	七飯	八雲	砂原	北檜山		奥尻
幼稚部	2	1	1	1							1	2
小学部	13	4	9	8	1	2			1	1		6
中学部	5	3	2	3			1	1				4

3. 願う子どもの姿

自ら 学 ぶ 子
心をつたえる子
活動する子

を育てます。

4. 本年度重点教育目標

『子どものよさを伸ばす』

5. 本年度の運営の重点

アカウントビリティ(教育責任、説明責任) (子ども)の重視
インフォームド・コンセント(説明・了解) (保護者)の重視
地域とともに歩む学校づくり (地域)の重視